２０１８年
5月号
NO.0069

カトリック笹丘教会

教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「神のいつくしみをさらに生き、広めよう！」

聖母マリア様と共に

主任司祭　遠山満

祈りに関して、イエス様は弟子たちに次のように教えておられます。「あなた方が祈る時は、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は言葉数が多ければ、聞き入れられると思い込んでいる。彼らの真似をしてはならない。あなた方の父は、願う前から、あなた方に必要なものをご存じなのだ」（マタイ６章7～8節）。その後、「だから、こう祈りなさい」（同６章９節）と言われ、主の祈りを教えて下さいました。

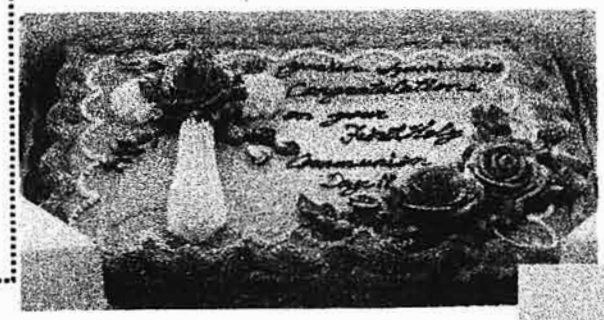
この箇所について、聖アウグスチヌスは、父なる神様は、私達が祈る前から私達に必要なものをご存じなのに、何故、私達は祈るのだろう、と自らに問いかけています。そして、その答えを次のように語っています。神様は、私達に大きな恵みを与えようとされている。その恵みを私達が受け取る事ができるように、私達が恵みを受け取る器を大きくすることができるように私達は祈るのだと。

そういう意味で、マリア様は私達の祈りの模範です。マリア様は、神の子の母になりますというお告げを受けました。この招きに応える為に、マリア様は絶えず祈られたに違いありません。神の子の母となる為には大きな恵みが必要でした。その恵みを父なる神様から受け取る為、その恵みを受ける器を大きくする為にです。マリア様が受けられた最大の恵みは、イエス様の母となると神様が計画されたことですが、その召命の道は、茨の道でありました。そのクライマックスは、十字架上のイエス様の元に佇まれた時です。その苦しみは、私達には計り知れません。ただ一つ言えることは、その苦しみを乗り越えられたマリア様は、名実共に神の母となられたと言うことです。

私達も、一人一人、固有の召命を頂いています。それは、司祭、修道者、奉献者の召命ばかりでなく、家庭人として召命、職業人として召命などがあります。私達が受けている召命を、最後まで生き抜くことができますようにマリア様に応援を願いながら、マリア様と共に祈りの生活を送って参りましょう。

初聖体

初聖体式おめでとうございます！



2018年　4月22日

小学校3,4年生3名が初聖体を受けました。

マリア・アスンプタ
難藤いずみさん

ライアン
八尋宇碧（ウィル）君

ミカエル
瀬戸勇心（ゆうしん）君

初聖体をいただいてどんな気持ちがしましたか？

ライアンやひろうぃる君
きょうからがんばることは、みさです。
ごせいたいをもらってうれしかった。
でもあじがぜんぜんしなかった。

マリア・アスンプタ
なんとういずみさん
ごせいたいをいただいて、ほっとして、うれしかったです。
おいしかったです。

ミカエルせとゆうしん君
うれしかったです。

神父様と教会学校の先生方と一緒に記念撮影

上：左から小浜いづみ先生、谷口光子先生、峯靖子先生　峯晶子さん

信仰のルーツコーナー

～～～主に呼ばれたから　第二話～～～

ルカ後藤勝彌

私が洗礼を受けたのは５０歳になった年のことでした。その頃、私は留学して習得してきた脳血管内手術が大学病院で生かせず悩んでいました。「自分の意思で出かけて学んできたこと、受け入れられなければ辞めて無医村にでも引籠ろうか」とさえ考え始めていたのです。その当時、私達が住んでいた家はカルメル修道会の隣に建っていました。それで子供を連れて修道会にベルギー風ゴーフルを買いに通ううちに、伊藤シスターと言葉を交わすようになりました。ある日私は思い切ってシスターに、「福岡に誰か良い外人の司祭はいらしゃいませんか？」と尋ねました。なぜ、外人の司祭かというと研修医時代の指導医がアメリカ留学時代に洗礼を受けてカトリックになった方で、「つくなら外人の司祭になさい」と言っていたからです。「なぜ？」と問うと、「信仰の深さが違う」という答えが返ってきました。そのころは人間の病気も生命現象も、＜生化学、生理学、薬理学、解剖学で解明できる＞と考えている青臭い医者でしたが、この言葉だけは忘れずに記憶に残っていたのです。シスターは「ああ、とても素晴らしい司祭がいらっしゃいますよ」と快く笹丘教会のドワイヤ司祭を紹介して下さったのです。それで司祭の聖書研究会に顔を出すようになりました。その時に読んだ「良きサマリア人」の話に、「やっぱりこれが医の心だ」と悟りました。（因みにアメリカには「良きサマリア人」という名前の病院があちこちにありますね）履いていたスリッパの上に落ちた一粒の涙がポツリと大きな音を立てたのが回心の時でした。復活祭の時にドワイヤ司祭に洗礼を授けていただき飯塚病院に赴任しましたが、それからはお恵みに続くお恵みでした。というのは全国から押し寄せて来る患者さんの多くは脳外科医がさじを投げたケースでしたが、殆どの患者さんを短期間で治して故郷に帰すことが出来、新しい治療法を確立させることもできたのです。「脳血管内治療というのは世界で最も危険な仕事。我々に必要なのは運だ」がアメリカ留学時代の師匠の口癖でしたが・・・。伊藤シスターには聖ルカの祝日などには、いまでも「お祈りしています」と美しい聖母の絵葉書を頂いています。なにかにつけ、シスターたちの祈りの力は凄いと感じる次第です。

なぜ私がカトリックになったのかについては、長崎での幼少児期の記憶と関係があるでしょう。人の記憶は３～４歳に始まるものですが、４歳で疎開先から長崎に戻って来た私を連れて父は炎天下の爆心地をとめどもなく歩きまわりました。果てしなくがれきの山の続く爆心地を、あっち覗き、こっち覗きしているうちに一人取り残されてしまった私は、井戸の底から空を見上げている牛の頭蓋骨の虚ろな眼窩に引き付けられて動けなくなってしまいました。それから、物音ひとつしないあたりの静けさにゾッとして、あわてて父の後を追ったのです。このように果てしなく広がる瓦礫の山が私の最初の記憶ですので、私は「原子野を通ってこの世に入って来た子」と言えるかもしれません。両親はプロテスタントだったようですが、私が物心ついてから教会に通っていたような記憶はありません。母は浦上の被爆した幼子たちがどのように祈りながら最期を迎えたかを様々に話してくれたのを覚えていますし、幼い私を連れて家の山の上のほうにあった聖母の騎士会修道院に良く出入りしていました。(次月につづく)

∞∞ようこそ笹丘教会へ∞∞

司牧実習生紹介

ヨセフ青田憲司

長崎教区、長崎市の浦上教会出身のヨセフ青田です。本年度は笹丘教会に派遣されることとなり、若干の緊張覚えています。

小学校が同じアウグスチノ会の小学校（聖マリア学院学校）でしたので、当時アメリカから来られていた神父さまたちの顔が懐かしく思い出されます。

特技はテニスとフィギュアスケートです。今となってはなかなかできません。また、小学校の神父さまたちの影響でしょうか、当時から海外に興味がありました。アメリカ・韓国・ヨーロッパ等々、大学生の頃は色々なところを旅しました。

高校卒業後は福岡の大学に進学、就職し、さらに経営学を学ぶために大学院にも進学いたしました。その後、長崎に戻り、教会のことを多少お手伝いするうちに神学院進学を勧められるようになりました。自分自身には身に余ると、数年間辞退させていただきましたが、教会に奉仕することには年齢は関係ないと気付かされ、決心して神学院に入学しました。それから、早いものであっという間に五年目になります。

神学生という立場になり、一般社会とは違うことを実感しています。それは信徒の方々のお祈りと応援です。皆さまのお祈りこそが、わたしたち神学生が一歩一歩前進するための、大きな支えとなっていることをいつも実感しています。

わたしくのみならず、福岡教区の神学生、また日本全国の神学生たちのために、引き続きお祈りいただければ幸いです。一年間よろしくお願いします。

ヨセフ青田

編集後記

今回は現在の広報委員を紹介します。

西山淳子

広報委員を引き受けて5年経ちました。老けました～。でも、当初より腕が上がりました！うれしいものです。

喜多村由布子

「やっていこう、私たちにできることを」のテーマを思い参加しています。携わって3年経ちました。教会の皆様に読んでいただける教会ニュースをこれからも作っていけますようにと祈りながら、今年もメンバーで協力しながら発行できればと思います。皆様からの原稿、アイディアお待ちしています。一緒に活動していただけるメンバー募集中です。いつでもお待ちしています。

辛嶋文子

地味に活動している進歩のない私です。が、仲間と一緒の作業はとても楽しいです♪

皆様の原稿、ご意見あっての教会ニュース何かあったらお声かけ下さい！